

讃岐香川の様々な文化発展を応援します。

# 文化通心

B U N K A T S U S H I N

2022冬 No.116



## 数寄者の茶会は楽しい

長年、茶の湯を楽しんで来られた数寄者、丸亀の高畑昭先生に五人様茶会をお願いしました。珍しいお道具の数々と、熱のこもった詳しい説明に、お客様の笑顔がたくさんの茶会になりました。お点前と薄茶席をご協力くださった金澤和子先生にも感謝申し上げます。

- 第8回 あ・うんの数寄講座  
茶の湯をさらに楽しむ夏期講習 後半
- 栄光のプチミュージカル ● 「仁庵」これまで、これから
- 12月から2月までの茶華道情報／財団からのお知らせ

発行：公益財団法人 中條文化振興財団  
〒760-0017 高松市番町2丁目1番12号  
TEL (087) 826-3355 FAX (087) 826-2212  
2022年冬号 No.116 12月1日発行(季刊)

# 茶の湯をさらに楽しむ夏期講習

第4回 8月21日(日)

「茶の湯折々の想い出」

講師 木下 收 (北村美術館 館長)

## 讃岐の院と西行法師

京都上京区にある北村美術館は、昭和の数寄者と呼ばれた北村謹次郎氏の旧邸、四君子苑の一角にあります。この度、『四君子苑の庭と石』という美しい本が刊行されました。石造美術の宝庫と言われるお庭には、香川ゆかりのものがあ

り、この度の講演に際して白峰寺を見学させていただきました。(前号表紙)  
さて、白峯寺には、「崇徳天皇の御陵」や鼓岡の行在所であった御廟を移築した「頓証寺殿」があり、崇徳天皇を深く慕っていた西行法師は、御陵の前でお経を繰り返し読まれたそうです。

よしや君いかしの玉の床とても  
かからんのらは何にかはせん(西行)

崇徳上皇は「讃岐の院」と呼ばれ、

一一五六年(保元元年)に起こった保元の乱で、後白河天皇に敗れて讃岐に流されました。

浜千鳥あとは都にかよへども  
身は松山に音のみぞなく(崇徳院)

この乱は、皇室中心の時代から、武士の政界進出の大きな契機となった戦いで、源平合戦の直前の時代でした。すぐ後には、現在、大河ドラマで放映されている鎌倉殿の時代が続きます。

保元の乱の直後、高野山で修行をしていた西行は、鳥羽上皇の葬送に参列し、更に危険を冒して仁和寺で敗残、剃髪された崇徳院の元へも伺候しています。

かかる世にかげも変わらずすむ月と  
見る我が身さへ恨めしき哉(西行)

崇徳院と西行は、共に優れた歌人であり、数寄の好みも共通するところが多かったので、院を失うことは、和歌の道が途絶えることであり、王朝文化の断絶を意味するとまで、思っていたようです。しかしその後、西行が讃岐に行脚できたのは、崇徳院が崩御されてから四年後の事で、その時の歌には落胆の気持ち

がよく現れています。

松山の波の景色は変わらじと  
形なく君はなりましにけり(西行)

## 上皇との和解

木下館長のご自宅のすぐ近くには、仮御所になったこともある門跡寺院の聖護院御殿があつて、その塔頭にある崇徳院地蔵が、子供の頃からの遊び場にあつたそうです。

また、今出川通堀川には白峯神宮があつて、館長が不審庵に通われる時には、よく門前を通られるそうです。

慶応四年に明治天皇が、讃岐から崇徳天皇と、淡路島から淳仁天皇の御神霊を京都に移して、皇室鎮護の神として創建されたそうです。

明治時代になって、ようやく天皇が統治する時代を迎えるにあたって「願わくば大魔王になりて天下を悩乱せん」という上皇の怨念とどうしても和解する必要があつたと考えられます。

講演の前日には、館長にお供して上皇ゆかりの地を訪ねてきました。

讃岐流罪の直後に行在所として過ごした「雲井御所跡」は綾川の河口付近にありました。その後に滞在したという「長命寺跡」。鴨川にある「鼓岡神社」は、

ホトトギスが泣けば都を思い出すと嘆いた上皇の気持ちを汲んで、鳥たちが泣くのをやめた「鳴かずの里」。

更に上皇のご遺体を浸した「八十場の霊水」と、その間上皇をお守りするご神光が現れたと伝わる「明かりの宮」の「白峯宮」には、三輪造りの朱塗の美しい鳥居がありました。

いよいよ白峰で茶毘にふすために立ち寄った麓の「高家神社」は「血の宮」と呼ばれ、白峰山で茶毘にふした時に上皇の怨念が煙となって稚児ヶ嶽の下に漂っていたとされる青海神社(煙の宮)も訪ねました。そこから御陵前までの登り道は現在では「西行法師の道」と呼ばれ、和歌の碑が整備されています。

## 西行庵

その後、西行の足は白峰から善通寺に向かつていきます。弘法大師に救いを求めるような切羽詰まった心境であつたの





ではないか。と、ここからは白洲正子さんの『西行』を頼りに曼荼羅寺の上にある「西行庵」を訪ねました。

周りは一面の蜜柑畑で庵室は木立に囲まれて立っていました。周囲には古い五輪の塔や板碑が散らばり、そこからの景色は広い平野の彼方に「讃岐富士」が遠望されその向こうに白峯の連山が浮かび、我拝師山の西行庵と讃岐の院の旧跡と白峯の御陵が一直線に並んでいるのを確認して、西行がここで院の怨霊を慰めようとしたのではないかと確信されたようです。

ここをまたわれほみ憂くて浮かれなげ  
松はひとりにならんとすらん(西行)

讃岐では「松」といえば崇徳院を象徴しているそうです。(中條晴之)

第5回 8月28日(日)

## 「喫茶の碗の物語」

講師 伊藤 嘉章

(愛知県陶磁美術館総長・町田市立博物館館長)

茶の湯で用いられる喫茶のための道具・茶陶は水指や、天目、茶碗、茶入…、茶の空間を作る花入など、また、茶の湯の懷石の食器といろいろありますが、主人と客の間を行き来する、あるいは、客が手で持って茶を喫する天目と茶碗は特別な位置を得ています。

平安時代末に臨済宗の榮西が中国から持ち帰った抹茶は、室町時代に茶の湯として大成され今日に至ります。

茶の湯以前の喫茶は、清水寺縁起絵巻の一場面にもあるように、僧侶たちの修行中の寝むけ覚まし飲み物でした。寺院での喫茶風景には大きな水指が描かれて、一度にたくさんの人に茶を点てる様子が伺えます。また酒販論絵巻には酒や飯を振る舞う宴会の座敷風景や調理する台所風景が描き分けられていて、人々の衣装や調度品に及んで丁寧に描き込まれている中に、白磁蓋がみえます。これらの絵はともに茶の湯以前の喫茶描写です。時代は下つて、煎茶は江戸時代、黄檗山萬福寺の隠元禪師による伝来ですが、喫茶道具を携えて町に出て普及に努める売茶翁の観楓図屏風にも二種類の青磁茶碗がみられます。ともに時代の風俗を描きながら、お茶の世界を垣間見せる貴重な資料です。

抹茶とともに早くから伝わってきた天目は、寺院や貴族、武家の喫茶の碗として広がっていますが、鎌倉時代の武士社会の中で、武士たちの儀式めいた飲食後の飲み物になっていきます。室町時代の座敷飾りの秘伝書「君臺觀左右帳記」には、室町將軍足利義政秘蔵の東山御物、中国古美術から選びぬかれた唐物を中心とした画軸や花や置物の飾り方式が記述されています。曜変天目に関して、上之物、無上也、世上になき物也と価値を激賞し、濃き瑠璃色の中に薄き瑠璃色

の星があつて…と容姿の賛美を惜しみません。絶賛を極めながら、それに続くものとして油滴天目、建盞などを列記しています。

やがて国内生産が脚光を浴びて、瀬戸や美濃の窯で焼かれるようになるわけですが、茶の湯の碗、侘び茶の価値観が定着して唐物、高麗物に並んで、和物が重く取り上げられるようになっていきます。喫茶から茶の湯への移行に伴って、喫茶の和物碗が表舞台に登場してくることになります。

「松屋会記」に、奈良・中坊井上源吾に招かれた茶会で宗易形ノ茶ワンが使われていたとあります。千利休が長次郎に焼かせた侘び茶を体现する楽茶碗のこと



で、これを契機として、これまでの主体であった天目茶碗に、今やキ茶ワン、セト茶ワンが肩を並べ急増してきます。手に沿った柔らかさ、薄暗い茶室で見ると色を消して形の主張が無くなる心地よさが愛でられてのことでしょう。

また、宗湛日記の「ウス茶ノ時ハ。セト茶碗、ヒツミ候也、ヘウケモノ也」は、古田織部が瀬戸の窯で焼いた歪みのある杢形茶碗で薄茶が振る舞われたとの記述です。後世に織部Ⅱひょうげものと呼ばれる所以です。茶会記に見る茶碗の使用例も唐物、高麗、和物別に統計していきますと一目瞭然で、天正十四年から和物数が急増します。茶碗製作に際して、総釉から土見せのものに変わっていきます。

茶碗とは何かという定義が時代とともに変わっていきます。茶碗観の逆転は茶を喫する場所が書院から小間の茶室に移っていく環境的なものや、茶人の好みに左右されながら推移していきます。志野焼茶碗の見る人の感性にまかす抽象的な絵付けが江戸時代に入ると、仁清のような絵画的な絵付けにと、新しい表現の茶の湯の茶碗が流行してきます。

天下の名碗映像を、故事来歴のご紹介を含めてたくさん見ていただきましたが、茶の湯とともに新たな造形が生まれ、桃山時代に開花し、時代とともに変化が訪れ、それらが重層的に存在するのが今ということになります。

(妹尾共子)



# 栄光のプチミュージカル

財団の助成金事業が30年を迎えるに当たって、特に思い出深い事業として記憶に残っているのが「劇団プチミュージカル」さんです。代表の山崎恒人さんはじめスタッフとして活躍された皆さんもいつのまにか孫が大人になるうとしています。創立から39年の活動に終止符を打たれるという事で、改めてその業績を振り返っていただきました。長い間、ありがとうございました。

平成十一年春「文化通心」の表紙に、劇団プチミュージカル「セルロイドの樹の下で」の公演写真を掲載いただきました。そこにはこんな言葉がありました。「どれ程の練習を重ねて本番のステージに立つのだろうか。学業との両立は大変だろうなあ。子供たちの情熱はそんな心配を微塵も感じさせない。一人一人が主役でありながら、全員の気持ちが一つにならなければ舞台は成り立たない。そう、みんなしっかりと自分の果たすべき義務と責任を学び取っているのです。団員が入れ替わってもこのスピリットは、ずっとずっと受け継がれますように」



1999年3月発行  
文化通心21号

創立三十九年目の劇団プチミュージカルは、今年度を持って活動を終了いたします。主な理由は少子化です。園児から大人まで幅広い年齢層の団員で活動してきたプチミュージカルの作品創りが継続できなくなったからです。この場をお借りして、劇団の活動についてご紹介させていただきます。

劇団プチミュージカルは小学校のクラブ活動からスタートしました。やがて藁半紙のパンフレット、手書きのポスター、手作りの大道具で自主公演を始めました。これがプチミュージカルの小さくて大きな第一歩だったのです。

手作りミュージカルの活動は、価値あるものだったのですが、大きな舞台に立てば、もっと大きく成長できるかもしれないと劇場公演にチャレンジしました。子供の輝く瞳を見てみたいという多くの人々の支援を受け、小学校のクラブが高松市民会館で公演したのです。この公演は大成功！子供たちは胸を張って、



セルロイドの樹の下で



レストラーレ



響け♪駅ピアノ



紙風船の歌



ピコ



あぶくだったにえたった、  
にえたら宇宙へ飛んでゆけ！



ラストステージを是非お見逃しなく!



## ミュージカル 「いろはに こんぺいとう」

令和4年12月25日(日)16時開場  
レクザムホール(大ホール)

令和5年2月12日(日)16時開場  
三木町文化交流プラザ(メタホール)

チケットのお申し込みは  
劇団事務局 0879-42-3567

大きく成長したのでした。  
もう一つ大きな変化がありました。それは子供観です。子供は大人になるための準備期間という捉え方は一般的ですが、それを覆す転機がありました。それはクラブの子供ではありませんが、身近な小学生が幼くして亡くなったことです。もし子供が大人になるための準備期間という存在ならば、大人になる前に夭折した子供の生きた意味をどう受け止めればいいのか。その自問から「子どもは大人と対等であり、今を生きる尊厳を持った人間である」と考えるようになりました。もう「子供のためのミュージカル」つまりお子様ランチを創る必要はありません。子供と一緒に世代を超えて心に残る作品を創るようになったのです。

そしていよいよ小学校から独立。「地方から文化発信」「アマチュア文化」「全国レベルの作品創り」「教育活動」の四つのコンセプトを持つ劇団プチミュージカルの誕生です。しかし当時のプチミュージカルは学芸会の延長と捉えられていました。そんな中、第一回助成金交付団体を選んでくださったのです。計五年間のご支援は、私たちの大きな自信となりました。この自信を元に第三回宝塚ミュージカルコンクールに出場。アマチュアでありながら、オリジナリティ溢れるプチミュージカルの作品は、金賞(優勝)、内海重典審査員特別賞を受賞いたしました。また、その活動に対し、香川県知事表彰教育文化功労者賞をいただきました。

「このスピリットは、ずっとずっと受け継がれますように」の言葉通り、私たちの心の中にプチミュージカルスピリットはずっと生き続けてきました。そしてこれから文化芸術活動を担う若い世代の人々に、このスピリットが受け継がれることを願います。  
(山崎恒人)

2009



風渡る家



# 「仁庵」これまで、これから

財団賞受賞 榊原佳代子さん

弘法大師・空海の修行跡をたどる四国八十八カ所霊場巡りの遍路旅は、お大師さんと同行二人の祈りの旅。路傍の家々では「お接待」文化を育んできましたが、八栗山麓の仁庵でも暖かいもてなしを続けてきた榊原佳代子さんの地道な活躍がありました。



お遍路休憩所「仁庵」を始めたきっかけのひとつをお話します。

それは1998年、四国4県を巡る空海展を見に行ったときのことです。近所の方に入場券をいただき、その素晴らしい仏像や美術品、宝物などをみたとき、今まで体験したこのない熱いものを感じました。

牟礼町に住みはじめて21年間は六万寺の近くで学習塾をしていました。多くの子供たちやお母さんとの楽しい日々が続いていたのですが、そのころから私は四国にいったい何をしに来たのだろうかと思うようになりました。

ある日、ふと自宅の玄関を開けてみると前方に八栗寺のうら山、五剣山がとびこんできました。今までは何も気に留めていなかったのですが、仏の寝姿のように見えるのです。ボーと眺めていると、ふと「あつ、ひよつとすると四国にお接待をするために来たのかも…」とそんな思いがよぎりました。

子供のころから中国山脈の分水嶺のよ

うな村で、家族に見守られヌクヌクと育ち、山の奥なので中学校は6キロも離れた所でしたので入学したときは足が痛くてつらかったのを覚えております。往復12キロ、雨の時も風の時も雪の日も通いましたので歩きの大変さは身をもって感じていました。その体験があったからこそ「年をとってもお接待ならできるのではないか、今の仕事をやめた後は、歩きお遍路さんのひと休みできる庵ができればいいな…」そんなことを考えるようになりました。

そんなおり、夫の仕事の関係でいきなりインドネシアのバンドンという町に住むことになりました。2001年、2004年です。その間、2カ月に1度くらい、私だけ帰省して土地探しです。あれこれ探しましたがなかなか見つからず、八栗参道を歩いていると荒れ果てた土地が目に入る冬の寒い日でした。水仙がひっそり咲いていて「ここがいいよ」を教えてくださいました。持ち主は東京の方でしたので近所の方をお願いすると心よ

く手続きして下さいました。

土地が決まりましたので、その間インドネシアで毎日、夢の庵の設計図を何枚も書いて楽しみました。それから私の尊敬する大工さんをお願いすると82歳の伏見秀雄さんは、当時、イサムノグチの家の修復工事が終わり次第とりかかるとのこと。自分の最後の仕事にすると、もう一人のお茶をなさっている池内さんと二人で頑張ってくださいました。

建設にあたり、不思議と大工さんの知り合いの方が集ってきたださりと、皆さんの協力により材木も私の実家の切り倒していたひのきを九州まで行くという運送会社の方が帰りに10トン車一杯に運んでくださり、近くの山小屋で製材、木組みをしてくださいました。ゆっくり、ゆっくりの仕事です。

2007年夏、ようやく完成。その年の秋には多くの歩きお遍路さんが立ち寄ってくださいました。ここができて本当に良かったというお遍路さんの汗にまみれた笑顔を見ると私までもうれしくなりました。

お遍路ノートは23冊目となりました。仁庵は助けてくださる友人、知人、お遍路さんでなりたっています。今思うと皆さんのおかげでこれまで続いてきたと思います。この受賞を機に改めて深い感謝の気持ちがありました。

最後になりましたが、去年10月に他界いたしました夫の協力があつたからこそです。夫も体を悪くし、酸素ボンベをひ



きながら車で来るようになりました。ここで囲碁を楽しんだり、外国の方との語らい、文学談義、お遍路さんの中には素晴らしい学識のある方がたくさんいらっしゃってアドバイスをもらったり、最後の10年間は古典文学（万葉集等）を楽しみました。今では仁庵の片隅で見守ってくれております。

この17年間にはいろいろな心に響くめぐりあいがたくさんありました。紙面が足りませんので残念です。牟礼町にお越しの節はぜひ仁庵にお立ちよりくださいませ。木曜日以外、特別な用事のない限り10時すぎから4時くらいまで開いております。

今は自然も人も皆、この地球で平和に生きていけたらと思っております。

この度は私の小さな仁庵に光をあてて下さいまして本当にありがとうございます。現成公案！（あなたに起こることはすべて宇宙のはからい）

## 鯛も焼かれる季節です

子供の頃初詣の帰りに買ってもらっていた参道に並ぶ屋台の『たい焼き』。近頃は専門店を見かけるようになりました。

アニメのヒロインがいつもたい焼きを食べていることがSNSで広がり外国でも人気のあるたい焼きですが、たい焼きの「焼き型」には、1匹ずつ焼き上げる型（一丁焼き）と、鉄板などで複数匹を一度に焼き上げる型の2種類があるようです。

味にこだわる人々の中には前者で焼いた鯛焼きを「天然物」・「一本焼き」・「一丁焼き」、後者を「養殖物」・「連式」などと呼び違いを明確にするそうです。手間がかかり2kgを超える鋳物の焼き型を一つずつ返す為に体力も必要な一丁焼き型の使用は近年少なくなりましたが、伝統的な焼き方と味（高温で焼くために皮がカリッとしている）にこだわりを持つたい焼き職人もいます。

あんには、小豆の餡だけではなく、カスタードや栗あんなんかもありますが、外国ではあんこは入れられず、リンゴやベーコン、チーズやチョコレートなんだとか…

どのあんにしても、皮がパリパリしていて、しっぽの先まで詰まっていると嬉しくなりますよね。

緑茶だけでなく、コーヒーなどにも合うあんの詰まったたい焼きをお茶請けにいかがですか。



## お茶の風景 (18)

## 冬至

栗林公園の北湖に架かる赤橋（梅林橋）の手前に「冬至梅」と親しまれる古木があります。春に魁る花として愛でられる梅の中でも一段と早咲きで、冬枯れの景色の中で淡紅の花枝を大きく広げてあたりを彩っています。

中国古代周王朝の暦は、一年で最も昼の時間が短い冬至の日を一年の始まりとしたそうですが、象徴の「一陽来復」は現代の年賀状の常套語となり、新旧の暦をスライドして使われています。反面、市井の変わらぬ風習は

柚子湯を沸かし、大根、蓮根、人参、南瓜など「ン」つくものを食べて無病息災を願う、茶の湯の世界では、この季節に夜咄の茶事で夜長を楽しみます。

地球が地軸を傾けて公転することで生じる四季の移ろいも、近年の温暖化による感覚のズレはいなめませんが、「冬来たりなば春遠からじ」と苦境を励ます立冬の名文句通り、冬至を境に畳の目一目ずつ日脚をのぼし、立春・春分を経て本格的な春に至ります。



## 財団行事予定 (12月～2月)

休館日  
水曜日

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、急遽中止になる事もあります。お出かけの前にご確認ください。

## 12月

- ◆ 晴友会研修旅行  
12月1日(木)～2日(金) 京都・大阪方面
- ◆ 書道教室 毎月第1・第3金曜日  
森本義人先生  
12月2日・16日(金) 午前10時～12時
- ◆ 懐石講座 三友居 山本勝先生  
12月6日(火) 午前11時・午後3時
- ◆ 和菓子講座 毎月第2金曜日  
高橋初乃先生  
12月9日(金) 午前10時～12時
- ◆ ヤングヤング(子供茶の湯教室)  
毎月第2・第4土曜日 山下純子先生  
12月10日・24日(土) 午後1時～
- ◆ 月に一度の喫茶室 毎月第3火曜日  
12月20日(火) 午前10時～午後2時(受付)  
自由なお時間にどうぞ(ランチは要予約)。

## 1月

- ◆ 初釜  
久しぶりに茶茶倶楽部の皆様が集まる初めのお席を設けてくださることになりました。「来年こそはと願いを込めて、癸卯の初釜をかけさせて頂くことになりました。」

同、心よりお待ちしております」と席主からのメッセージと合わせてご案内いたします。  
好例の福引もありますのでお楽しみに。

日時 1月5日(木)  
処 美藻庵 晴松亭(当財団茶室)  
席主 裏千家 茶茶倶楽部  
代表 氏家宗鶴  
会費 8,000円(濃茶・薄茶・点心席)  
入席時間(各席8名・2時間30分を予定)  
第1席 9時 第2席 9時50分  
第3席 10時40分 第4席 11時30分  
第5席 12時20分 第6席 13時10分  
第7席 14時  
申込 電話受付 12月5日(月) 10時～

- ◆ 書道教室 森本義人先生  
1月6日・20日(金) 午前10時～12時
- ◆ 和菓子講座 高橋初乃先生  
1月13日(金) 午前10時～12時
- ◆ ヤングヤング 山下純子先生  
1月14日・28日(土) 午後1時～
- ◆ 月に一度の喫茶室 毎月第3火曜日  
1月17日(火) 午前10時～午後2時(受付)  
自由なお時間にどうぞ(ランチは要予約)。

## 2月

- ◆ 書道教室 森本義人先生  
2月3日・17日(金) 午前10時～12時
- ◆ 和菓子講座 高橋初乃先生  
2月10日(金) 午前10時～12時
- ◆ ヤングヤング 山下純子先生  
2月11日・25日(土) 午後1時～
- ◆ 2月月釜 五人様茶会  
暖かな陽だまりの中でホッと一息、早春の香組とお薄席で春の訪れを感じていただければ幸いです。  
日時 2月19日(日)  
処 美藻庵 晴松亭(当財団茶室)  
薄茶 武者小路千家 佐藤守春  
香 御家流香道 香雲会 野田法子  
会費 6,000円(薄茶・香・点心席)  
入席時間(各席6名・2時間15分を予定)  
第1席 9時 第2席 10時30分  
第3席 11時15分 第4席 12時45分  
第5席 14時15分 (各席A席・B席)  
申込 電話受付 1月16日(月) 10時～
- ◆ 月に一度の喫茶室 毎月第3火曜日  
2月21日(火) 午前10時～午後2時(受付)  
自由なお時間にどうぞ(ランチは要予約)。



## 茶 華 道 ガ イ ド

急遽中止等の変更となる場合があります。

### 表千家同門会香川県支部 TEL (087) 845-4638

2/12 東讃四季茶会 席主：横井宗永  
大西・アオイ記念館 800円 9:00～15:00

### 茶道裏千家淡交会香川支部 TEL (0877) 62-4155

1/29 月釜 席主：豊泉会 樟蔭軒 600円 10:00～14:00  
3/5 月釜 席主：阿部宗美、倉本宗志  
多度津町地域交流センター2F 600円 9:30～15:00  
3/5 月釜 席主：香艸会 樟蔭軒 600円 10:00～14:00

### 茶道裏千家淡交会高松支部 TEL (087) 841-0605

<淡交会高松支部月釜> 前売券のみ・入席時間指定  
大西・アオイ記念館 800円 9:30～15:00  
12/11 席主：高松青年部  
2/5 席主：神内宗康

### 琴平月釜茶道会 TEL 090-3460-9195

12/1 琴平町文化祭(呈茶のみ) 席主：琴平官休会  
アクト琴平 200円 10:00～15:00

### 武者小路千家香川官休会 TEL (087) 862-8574

<香川官休会月釜> 無量寿院(御坊町) 800円 9:00～15:00  
1/22 席主：霜 妙真 社中  
3/5 席主：多田妙容 社中

### 大西・アオイ記念財団 TEL (087) 880-7888

12/4 大西・アオイ花茶会 席主：石州流讃岐清水派石州会  
大西・アオイ記念館 800円 9:00～15:00

### 高松市香南歴史民俗郷土館 TEL (087) 879-0717

<由佐城月釜茶会> 前売券のみ・入席時間指定  
第2研修室(和室) 600円 9:30～(全6席)  
12/18 席主：三好宇太郎(武者小路千家)  
2/19 席主：漆原好美(煎茶道三癸亭寛茶流)

## ● 財団からのお知らせ

### 中條文化振興財団

### 令和5年度 助成金応募受付中

#### ● 対象事業

令和5年4月1日から令和6年3月31日  
までに実施予定の文化事業。

#### ● 応募の方法

財団所定の助成金交付申請書を提出  
してください。

**応募締切は、令和5年1月31日。**

詳細(助成基準、所定の申請書等)は、  
当財団ホームページよりご確認ください。  
だくか、事務局までお問合せ下さい。

<https://chujo-zaidan.or.jp>

### 中條文化振興財団・ 文化活動奨励事業

10月3日(月)、令和4年度財団賞授賞式  
及び助成金交付団体認定書授与式を開催  
いたしました。



#### [財団賞]

(写真前列左から)

**三好 兼光**

**榎原 佳代子**

#### [助成団体]

(写真前列右から)

**Ruten-流転**

主宰 吉田 亜希

**Eclogion**

代表 三木 優希

**灸まん美術館**

館長 位野木 正

## 編集後記

ユネスコの世界遺産に綾川町の  
綾子踊りと滝宮の念仏踊りが登録  
されるとのニュースがありました。  
た。どちらの保存会の皆様方の喜  
びはとも大きいものと思いま  
す。当財団も応援させていただ  
いたご縁がありほんとうにうれし  
いことです。

四国遍路も世界遺産登録を目指  
して遍路道や休憩所などの整備を  
進めていると聞きます。遍路特有  
の「お接待」は人と人とのつなが  
りや他人への思いやりを考えさせ  
てくれる文化であり、この暖かさ  
に心を動かされ、外から四国に移  
住する人もおられます。

内に住んでいる私達も地域の歴  
史や伝統文化を知り、大切にす  
いかなければと思います。

#### 「声・情報お寄せください」

〒760-0017

高松市番町二丁目一十二

公益財団法人 中條文化振興財団 編集部

TEL (087) 826-1335

FAX (087) 826-1221

info@chujo-zaidan.or.jp